

# 「Contemplation」

～神はダニエル 裁判官～

ダニエル1：8～2：30

## contemplation(コンテンプレーション)と education(エディケーション)

contemplation とは「黙想」と訳すことができます。同じような意味の言葉に education という言葉もあります。contemplation は temple(テンプル)= 神殿という言葉から作られています。神の神殿によって思い巡らす。つまり「神の願い」。一方、education は「私の願い」と言い換えることができるでしょう。私たちの日常は如何でしょうか。私たちは多くの場合、相手の出方によって態度を変えたり、否定的なことばや無意識のうちに物事や人間関係を壊すような言葉を発してしまうことが習慣化されています。ですから、そんなつもりじゃなかった…。良い関係が築きたいのに壊れる、良くしたいのに悪くなる。そんな事が起こるのです。今日の聖書箇所が登場するダニエルという人物は、自分の思うとおりにならない出来事が目の前で起きた時に、ダニエルは“思慮深く”対処しました。あなたは思慮深く対処していますか？ダニエルはしていたのは常に contemplation でした。

## 知恵と思慮のダニエル

敵に国にあってどのように神様の前にあゆんでいったかということこの箇所からみることができます。何代も代わっていく王様の中で、正しい言葉をもって、その場所で王様に愛され、その場所で栄えていくことが見いだされます。ダニエル2：14「そのとき、ダニエルは、バビロンの知者たちを殺すために出て来た、侍従長アルヨクに、知恵と思慮とをもって対応した。」ダニエルたちは、自分たちは何も悪いことをしていないのに、殺されそうになりました。しかし彼らは慌てふためく事をしませんでした。危機的状況の時もダニエルは知恵と思慮をもって対応したのです。つまり、ダニエルが大切にしていたのは、いつも神様との関係だったのです。「私の願い」ではなく「神様の願い」を黙想の中で受取りました。「人の心には多くの計画がある。しかし、主のみ旨のみが実現する」箴言19：21と書いてあります。神の計画がならない時は私たちがその神さまの計画を邪魔している可能性があります。邪魔をしている時、相手の出方に寄って態度が違うという習慣が出ているのです。それを続けていると、あなたを通して良い事が起ころうとしていても、それが駄目になる可能性が高いという事です。それはとても残念な事です。もしもダニエルが、「なぜ呪文師たちのゆえに殺されなければならないのですか？」と反発したとすると、どうなっていたでしょうか。この箇所に書かれてあるようなことは起きなかったでしょう。あらゆる面でダニエルの態度が神様の現れだったのです。同じように私たちもダニエルのように Contemplation して行くなれば私たちの姿を通して神様が現れていくのです。相手の意見に対してよくわからないで、それを否定されたと思って勘違いしている時に、考えなければいけません。education ではなく Contemplation です。もしあなたが道を外しているのなら、神様はそこを戻そうとします。戻して、もうそこへ行かないようにするのが神様の愛です。痛いという事に合うことは大事です。痛いという事を知らなくてはどれだけ伝えてもわからないからです。しかし、それが2度3度ある事は悲しい事です。ですから1度で戻らなくてはいけません。ダニエルとは「私の神は私の裁判官」という意味です。彼はほとんどこの事に貫いて生きました。自分の悟りに頼らないという方法です。ダニエルが選んだ道は裁判官である神様を仰ぐという方法でした。「そういうわけでダニエルはどこに行ってもそこの人々から正しい判断をする人と思われたのです。」(ダニエル2：30)ダニエルにとって敵国の王様は喜ばしい権威ではありませんでした。聖書には「神に依らない権威は無い。」と書いてあります。ダニエルはその言葉に従って敵国の王に対しても真摯に向き合いました。この王に対して正しい判断をしました。そこで彼は選ばれていきます。

## 意図

ダニエルは神様がしてはならないという事を徹底して守りました。それは神様の意図をよく理解していたからです。意図をきち

んと受け取っている人はその計画がきちんとなります。意図が分かっていると適当なことをやってしまいます。ダニエルは意図が分かっていたので踏み外す事をしませんでした。敵国で悪い偶像に捧げられた肉は食べないという事で肉は食べませんでした。ベジタリアンはここから生まれました。しかし意図が違います。ダニエルは普段お肉も食べます。それには意図がありました。神様から離れないという意図でした。私の力は神様から来てその神様を通して栄光を現すという強い意志がありました。そしてそれによって夢を描いていたわけですから、神様から離れてしまうような行為を嫌ったのです。だから肉を食べないという決断をしました。あなたはあなたの人生の意図をわかっていますか？イエス様がどんな愛を持ってあなたの為に命を懸けたか理解できていますか？それがもし理解できていないのにそれをしたらどうなりますか？意図からずれているのなら、意図を受け取ることが大切です。神さまはあなたに多くのものを任せたくて仕方ないのです。

## 黙想(心を静める)

私たちは黙想をする必要があります。主義主張を言うのでは無く、静まり祈る事です。私たちの心の中にあるものが一言に言葉でも受肉されて出ていくのです。良い状態で保つ為に大切な事が黙想です。あなたの聖所(テンプル)はどこですか？ダニエルはいつも黙想する場所がありました。黙想(もくそう)とは、「目を閉じて静かに自らの内面に深く沈思し、信じる信仰における絶対的な存在と触れ合い、人生、生きることの意味について思いを巡らす行為。」(ダニエル6：10～11)ダニエルはいつもエルサレムに向かって窓を開けて祈っていたと書いてあります。彼も人間で、若かったのですから、目の前で起きる嫌な現状にはカッとなつたでしょう。ですから彼は、家に帰りました、黙って帰りました。そして神様に祈り感謝をしていたのです。ダニエルは黙想をしてそのまま終わらせるのではなく感謝に至って帰っていったのです。大切な事はここなのです。あなたの祈りが感謝になって終わっているかどうか。ダニエルは解決するまで祈りました。ダニエルがエルサレムの方に向かって祈ったのはエルサレムに神様がいたわけではなく、自らが違う方向に向いているその向きを修正したのです。あなたは黙想をしていますか？騒いだ心が消える方法と場所を見つけて欲しいのです。神さまの方法はいつも違います。心を静めることが最大のテーマであり、ポイントです。あなたの持論が渦巻いている限り神さまの方法があなたの中に生きてきません。「普通は…」「前から…」「ずっとこうしてきた」、これは大変危険であり問題です。

## 黙想(志に向かう直感)

本来人間は新しい事をするのは好きなのです。神さまは「見よ私は新しい事をする。今もうそれが起ころうとしている」と言われます。もし新しい事をするのが嫌いになっているのであれば、上手くいかないという良くない嘯きがあります。しかし神様は毎日新しい事をします。神様は過去にとられる事を一番、嫌っておられます。なぜなら新しくなるためです。黙想の中で志に向かう直感を養いましょう。新しい事を避けていくと直感がどんどん弱くなります。神様と共に新しくされ、志に向かう直感を研ぎ澄ませましょう。

## 黙想(イエス様なら)

イエス様はいつもゲッセマネに行かれました。そこで「我が神我が神私からこの杯を取り去って下さい。しかしあなたの御心の通りになりますように。」と祈られました。神様の前に出ることを怠ってはいけません。あなたが神様の前に出ることを願っているのです。そしてあなたが静まってイエス様ならどうするか聴きましよう。私たちは“頑な”という一番悪い敵を持っています。神様の前に静まって本当に意図が正しかったか見極めるのです。イエス様ならどうするか聴いて下さい。あなたが変わるチャンスです。礼拝で Brahms の Contemplation という曲で黙想の時間を持ちました。黙想の時間に是非利用してみてください。(YouTubeなどで検索があります)

(要約者:富岡 牧)

(10月16日)